

平成 21年 1月

佐藤誠也 学位論文審査要旨

主 査 原 田 省
副主査 紀 川 純 三
同 井 藤 久 雄

主論文

Combination chemotherapy of oxaliplatin and 5-fluorouracil may be an effective regimen for mucinous adenocarcinoma of the ovary: A potential treatment strategy (オキサリプラチンおよび5-フルオロウラシルによる併用療法は卵巣粘液性腺癌に有効である)

(著者：佐藤誠也、板持広明、紀川純三、大石徹郎、島田宗昭、佐藤慎也、浪花潤、上垣憲雅、野中道子、寺川直樹)

平成21年 Cancer Science 掲載予定

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は卵巣粘液性腺癌由来細胞株とヌードマウスの癌性腹膜炎モデルを用いて、粘液性腺癌に対する有効な化学療法を検討した論文である。5FUとL-OHPとの併用添加は、細胞増殖抑制において相加以上の効果を示した。これら2剤の併用投与はヌードマウスの平均生存期間を有意に延長した。一方、L-OHPの高感受性株ではERCC1蛋白発現が低く、5FUの添加でERCC1蛋白発現が抑制されることを示した。従って、卵巣粘液性腺癌に対して5FUとL-OHPとの併用が有効であるとともに、その作用機序には5FUによるERCC1蛋白発現の抑制が関与していることを明らかにした。

本研究は新知見に富むものであり、その結果は婦人科腫瘍学研究に貢献するとともに明らかに学術の水準を高めたものと認める。